

## ■ 将来世代問題の規範理論的考察

常磐大学嘱託研究員 (法哲学) 吉良貴之

### 1. 世代間正義 (intergenerational justice) 論の枠組み

- 異なる世代の間の利害の分配的正義 (distributive justice)、特にいまだ生まれざる将来世代への配慮の規範的根拠を問題にする、時間軸を入れた正義論。
- 「現在世代と将来世代の間の正義」という大きな枠組みと、より細かい各世代間の正義を (ひとまず) 分けることの重要性。

### 2. 将来世代の利害は現在世代の誰かによって適切に「代表」されうるか？

- 議会制民主政治が構造的に抱える現在中心主義 : 現在の利益の反映
- 「世代」を一括りにすることの危険性 : 世代内正義の不可視化
- 「将来世代」の縦横の範囲の不確定性 : 無限の配慮は不可能 → どこで切る？
- 利害の不確実性 (例: 温暖化リスクの地域的温度差) → 決断とその責任

### 3. 規範的正当化の様々なアプローチとその諸問題

- 契約論や権利論の躓きの石としての非同一性問題
- 将来世代を含む功利論の諸問題: 総和/平均 → 「世代会計」の捉え方
- 貫世代的共同体への想像力と、グローバル・ジャスティスの調和へ

### 4. まとめと提言

- (1) 「世代」の過度の実体視がもたらす危険性  
→ 範囲の不確定性、利害の不確実性、世代内問題の不可視化、etc.
  - (2) 想像力の触媒としての「世代」概念の有用性  
→ 貫世代的「共同体」へのコミットメント、民主政の現在中心主義の緩和
- ★ 将来世代問題にあたっては、「世代」概念について、(1) の危険を意識しつつ (2) の有用性を生かしていくような方向性が求められる。

#### [参考文献]

- 吉良貴之「世代間正義論——将来世代配慮責務の根拠と範囲」、国家学会雑誌 119 巻 5-6 号、2006 年
- 吉良貴之「世代間正義と将来世代の権利論」、愛敬浩二編『講座 人権論の再定位(2) 人権の主体』、法律文化社、2010 年

および、上記 2 論文に記載の諸文献。